

事業効果

黒梅谷溪流保全工

事業名	大項目 (事業共通)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等 (地域の状況等)	受益者	
砂防事業	費用便益分析					
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減・人命、財産	○費用便益比	○B / C = 5.0 (事業効果費〔想定氾濫区域内施設の保全〕B = 4,781百万円) / (全体事業費〔溪流保全工 574m〕C = 960百万円) (想定被害額は、治水経済調査要綱等に基づき、人命、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定)	想定氾濫区域 内住民	
	定性的評価等					
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減	○想定氾濫区域内家屋等	○家屋数 約 52戸 ○農地 約 0.3ha	○主要施設：小学校、郵便局 ○災害弱者施設：幼稚園 ○交通網、ライフライン等：府道富田林五条線、村道	想定氾濫区域 内住民
			○想定氾濫区域内の重要な施設			想定氾濫区域 内住民、幼 稚園、幼 童、職 業、通 行者等
		○防災機能		○高城橋下流は家屋が密集しており道幅が狭いが、管理用通路を消防等の緊急車両の通行に利用できる。	周辺住民	
	活 力	○地域の活性化		○親水空間の整備により登山道の休憩場としても利用できることから、登山客の増加も考えられ、地域の活性化に繋がることが予想される。	周辺住民	
快 適 性 (生活環境)	○親水空間の確保		○高城橋上流は金剛山への登山口にあたり登山客等が多いため、緩傾斜護岸等を施工し水辺に親しめる施設とすることで、登山客等の憩いの場となるような親水公園的利用ができる。また、高城橋下流は集落の中を流下しているため、周辺の人々が管理用通路を散策道として利用できる。	周辺住民、 登山、ハイ ンク 客等		
環 境 (自然環境)	○生態系への影響		○護岸工の施工により、渓岸の浸食が防止される。 ○渓岸に石積工やブロック積工を施工し、河床にはコンクリート張を施工するため、現在の渓岸状態が変わる。 ↓ ・高城橋上流は河床にコンクリートを張っているが、河道内に石材を配置しているため自然に土砂が堆積し、年月が経てば草類の回復が期待できる。 また、高城橋下流では護岸工の施工は水衝部等の必要な箇所のみとするため、生態系への影響は少ないと考えられる。	周辺住民、 登山、ハイ ンク 客等		